

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	平成22年2月17日	評価結果市町村受理日	平成22年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101998&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者のその人らしさを活かした生活できるように、柔軟な姿勢で援助を行う。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、法人の特別養護老人ホームやデイサービス、ショートステイと同じ建物の4階にある。また、近隣に系列の医療機関や老人保健施設等多くの施設もあり、連携を取りながら利用者の生活を支えている。周辺は田畑が広がり、緑の多い環境にあり、ホームからの眺めもよい。4階に、娯楽に使えるホールがあり、色々なボランティアの訪問に活用され、特別養護老人ホームやショートステイ等の利用者と共に楽しんでおり、交流もある。地域公民館で隔月に開催される「いきいきサロン」に全員の利用者が参加しており、継続できるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は地域の中で利用者かその人らしく生活できるように援助し、理念の実践につなげている。	「利用者の意思と人格を尊重し、その人の立場に立ち、地域と家庭の結びつきを大事にしたサービスを提供する」ことを法人全体の理念とし、ホームとしても理念の実践にむけたサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者は、地域との関係性を継続できるように働きかけ、職員がホーム建物周辺の地域の清掃活動を行い、地域住民との関係作りに努めている。	地域から受け入れてもらえるよう、ホーム周辺の清掃活動を積極的に職員が実施している。自治会に加入し、地域公民館で隔月に開催される「いきいきサロン」に全利用者が参加し、リハビリ体操や医師による病気についての話を聞いている。住民から温かい声かけがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で2ヶ月に1度開催される「いきいきサロン」に参加したり、施設の夏祭りや盆踊りのチラシを地域に配布し、利用者と地域住民との交流に努め、ホームとして、地域に貢献できる事を検討、実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、会議を開催し、実情や取り組みを報告し、アドバイスや協力を得ながらサービスの向上に努めている。	家族の代表、地域の役員、市職員、法人関係者、事業所職員が参加し、3ヶ月に1回開催した。ホームの利用状況やヒヤリハット報告、行事予定の連絡等行っている。昨年までは2ヶ月に1回開催されていた。	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催が望まれる。また、より多くの参加が得られるよう、どの立場の人にも出席しやすい日時の検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には、常に報告する姿勢であり、必要に応じて、実情や問題に対するアドバイスを受けている。	介護保険制度の改正や季節の感染症等の情報提供、利用者の家庭環境等、介護保険を利用する上での問題等市と相談しながら行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者と職員は身体拘束に対する弊害を認識し、拘束の無い介護に努めている。	ホームは特別養護老人ホーム等と併設で最上階の4階にあるが、1階に事務所があり、利用者も来客も鍵の心配なく自由に出入りできる。日常の支援でも、言葉による静止や体の拘束が起きないように職員間で話し合い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士、見逃す事の無いように、職員会議では、必須のテーマとして、常に話し合っている。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会には、関心を持って参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など、文書を確認していただきながら、不安なく利用していただけるように説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会」は、3ヶ月に1回開催され、多くの家族が参加しているが、参加できない家族の利用者の気持ちに配慮し、1階の会議室で行なっている。ホームから活動報告や今後の予定を連絡し、家族の要望や意見を聞いている。意見は真摯に受け止め検討し、対応している。	「家族の会」が3ヶ月ごとに開催され、家族の出席率も良い。3ヶ月間の行事実施報告や利用者の日常、外食、ドライブやおやつ作り等の様子を報告している。参加した家族1人ずつに意見を求め、運営に反映すべきことは会議に取りあげ、検討、反映している。	インフルエンザ対策として面会制限を取り決め家族に周知したが、その後の家族への通達がうまく行われていない。随時の情報についての対応の検討や、毎月の家族への個別の利用者情報の提供も期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、GH会議にて、職員から意見を徴している。	職員会議は、法人併設施設とホームとの合同で隔月に開催するものと、ホーム独自で毎週開催するものがあるが、職員が意見を出しやすい環境ができており、自由に発言している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいについては、認知以外の研修にも参加できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に外部の研修情報を提供したり、必要な研修については参加を指示し、また、関係機関からの情報収集を図っている。職員に資格習得を奨励し、法人での学習会も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は協議会を通じて、同業者との交流に努め、勉強会にも参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人と家族にホームを見ていただき、雰囲気を経験していただくように働きかけている。他の利用者に紹介して、相性を見ながら少しずつ馴染んでいただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より、家族とのコミュニケーションに努め、いつでも電話や訪問を受け、できる限り不安が少なくなるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、本人と家族に不安があることを念頭に、必要としているサービスが適切であると感じていただけるように努め、援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを職員が共有できるようにしている。本人の声を聞く姿勢で援助し、本人との話し合いも時として行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始前の本人と家族の関係が壊れないように、日常生活の援助を行なっている。どんな些細な事も本人の希望であれば伝え、家族にしかできない援助をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が望まない場合があるが、できる限り実現できるように援助している。	入居を地域から知られたくない、近隣のホームを避けて入居する等の意識が家族に強くある地域性もあり、入居後、本人の馴染みの関係への接触を好まない家族もある。職員は、利用者への日常生活支援として大切であることを説明し、家族に理解を求めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者を意識しての意見などは、時として職員が解決せず、利用者に任せるなどして、お互いを理解していただけるようにしている。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に、いつでも相談を受けられ、関係が継続される事を伝え、本人や家族の不安に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人に意思確認し、本人が気持ちを伝えやすい環境づくりに努めている。	毎日、職員が一人ひとりの居室を訪問し、利用者やゆっくり話しを聴いている。また、申し送りを大切に行うよう職員間で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は家族から、利用開始後は、日常会話も含めて、日常生活の中から本人の暮らしを知り、本人らしさを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活介護の中にて、利用者一人ひとりと関わるようにしている。変化にいつも注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員の意見を集め、ホーム内での生活がより良くあるための計画を目標し、作成している。	家族の意見や職員の気づきを集め、介護支援専門員が作成し、家族の同意を得ている。協力医師をかかりつけ医師としている利用者が多く、医師との連携が取れている。受診に同行した家族からは受診結果の情報を提供してもらい、家族と相談しながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、介護記録に日々の様子を記入し、計画が適切であるか、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズに対し、できる限り対応する姿勢を持って援助している。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「いきいきサロン」に参加したり、買い物に行きながら、地域での生活を楽しくいただけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と相談の上、受診を援助している。かかりつけ医には、常に、日常生活の様子を伝え、適切な医療を受けられる体制づくりに配慮している。	協力医の往診が月2回あり、健康上の相談ができる。協力医がかかりつけ医となっている利用者が多く、系列に歯科や眼科もあり、受診支援はホームで行っている。系列以外は家族が支援しており、受診時の情報を家族から得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職は、常に介護職の相談に答えられる体制にあり、情報は適宜、伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療を受けられるように、医療者との情報交換に努め、早期退院に向けた話し合いも、利用者の状況に合わせて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせて、本人や家族と話し合う姿勢で取り組んできた。今後もその姿勢は変わらない。	医療的に重度化した場合は協力病院へ、また、介護度の高くなった利用者は特別養護老人ホームへ移るため、これまで看取りの経験はない。職員間での看取りに関する学習会を始めており、今後、ホームとしてできる事を検討していく姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認は職員が個々に行っている。訓練は現在まで行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として、年2回、利用者が参加して、避難訓練が行われている。その他に、利用者や災害時の対策の確認を不定期に行っている。	法人全体として防災訓練を行っている。地域の消防署立会いで実施し、居室からすぐ出られるベランダから、安全な広い空間まで実際に移動し、経路確認も行っている。避難に要する時間の確認や災害時備品の点検も同時に行い、職員の誘導等の役割も決めている。	

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者や家族の前で他の利用者の話をしないことを心掛けたり、言葉遣いにも配慮している。掲示物にも利用者の尊厳を失わない配慮がなされている。	法人で作った個人情報保護法の規約を職員で学習し、現場での意識付けをしている。掲示物の写真は家族の了解を得てから掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動に移す際、本人の希望や思いが聞かれる様、声掛けの仕方に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間など、利用者の生活リズムが尊重されている。新聞・乳酸飲料の購入、夜食など個々の楽しみに援助を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回、施設内で行なわれる理容室に行けるように援助する。利用者と共に衣類の購入に出掛け、好みのものを選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立を立て、厨房で用意された食材を職員が調理する。利用者は、配膳やテーブルを拭く、御手拭たたみ等を行なっている。月2回、グループホーム単独で、昼食作りや外食に行くなど楽しんでいただいている。	食事はホームの厨房で職員によって用意されている。職員は、食事介助を主に行うことになっているが、提供する食事の味見等も行っている。外食は日常の食費から出しており、2ヶ月に1回程度は利用者の希望を聞き出かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リビングにはいつでもお茶を飲めるようにポットが用意され、夜間は、コップなどにお茶をいれ、各部屋に置いて水分補給される。食事摂取量の把握を行い、月1回の体重測定を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、可能な限り自分で行なっていただき、出来ないところを援助している。夜間の義歯洗浄の援助も行なっている。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣を取り戻していただくため、時間を決めてトイレに誘導したり、パットの交換や後始末など、その人に合わせた援助を行っている。	自立している利用者もあるが、起床後や食事の前後等、時間に配慮してトイレ誘導し、記録にも残している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化を助ける食品やメニューを工夫したり、乳酸菌などの摂っていただいたり、運動や体操に声をかけたりと便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おき。気の合う利用者同士が入浴を楽しむ様子も見られる。利用者の希望により、昼間の入浴を行なっている。	ゆっくり入浴したい人は1人で、職員が見守りながら、浴槽をまたぐのが困難になった場合は福祉用具を活用したり、2人で介助し、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具や衣類を使用している。自由な時間に休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診療を受け、看護師の管理のもと服用している。症状の変化を医師や看護師に報告、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、リビングや居室の掃除など、できる範囲で役割を持ち行なえるように支援している。作品づくりも大きな楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、月に3・4回の買い物やドライブ。個々に家族と共に外食など、外出支援をしている。2ヶ月に1回、ふれあいいきいきサロンに参加など地域の人達との交流も行なっている。	天候がよければ、日常は建物の周囲を散歩している。車を使っての外出は閉じこもりがちな利用者の気分転換であり、大切な支援として、車椅子を用意して出かけている。初詣、買い物、花見や外食等季節の行事などを折り込み、利用者の出かけたいたい気持ちを引き出すよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、家族より金銭を預かり、預かり書を渡している。利用者が買い物する時に渡している。また、職員が金銭管理を行い、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室内で、手紙を書いたり読んだりできるように机を置いている。プライバシーに配慮して、電話の援助を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心掛け、開放されたトイレからの臭いに注意している。リビングは明るく、開放的で、季節ごとの花が置かれ、家庭的な雰囲気である。	共有空間の窓は多く明るい。職員は換気に注意し、不快なおいが無いように配慮している。居室の掃除は利用者と職員で共に行い、リビング・廊下等の掃除は専門の職員が行っている。多くの雑誌や料理の本が入れられたラックが置かれ、また、利用者と共に行った作品も飾られ、居心地の良い生活空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、離れた空間には丸テーブルを置き、自由に利用していただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、日当たりのいい居室には作り付けのタンスや洗面台があり、なじみの物を置いたり、飾ったりされる。また、居室内に冷蔵庫などを置いて、暮らしやすい環境に工夫されているところもある。	明るい居室には、馴染みの品が搬入され、個性のある部屋となっている。シルバーカーやポータブルトイレも居室にあるが、自分で使いやすいよう配置に工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は色分けされており、リビング内は動きやすい空間を配慮した配置を行なっている。		